

# 「道徳」教材としての『よわむし太郎』

## ——物語が規範化される回路——

小森陽一

はじめに

「よわむし太郎」は、『かがやけ 미래い 小学校どうとく3年 読みもの』（学校図書、『小学どうとく 生きる力 4』（日本文教出版）、『みんなで考え、話し合う 小学生のどうとく 3』（廣済堂あかつき）などに収録されている、昔話風物語を装った道徳教材である。

学校図書版の本文末尾には「荒木徳也作「よわむし太郎」による／立松三代子絵」とあり、挿絵は子どもたちにいじめられているのだが微笑を浮かべている「よわむし太郎」の立ち姿、子どもたちと白鳥に餌を与えている「よわむし太郎」のかがんだ姿、白鳥に矢を放とうとしている「とのさま」の前に両手を広げて立ちほだかり、白鳥を守る「よわむし太郎」の上半身。そして喜ぶ子どもたちとそれに呼応しているかのような白鳥と満面の笑みを浮かべた「よわむし太郎」の立ち姿になっている。

日本文教出版では「作・荒木徳也、『道徳の指導資料とその利用1』文部省による 絵・森華」とあり、挿絵は子どもたちに柿の実をぶつけられている「よわむし太郎」、子どもたちが白鳥に餌を与えているのを見守る「よわむし太郎」、矢を放とうとしている「とのさま」の前で、その家来を取り押さえながら片手を上げて涙を流しながら白鳥を守ろうとする「よわむし太郎」の全身像、そして「とのさま」たちが去っていくのを喜ぶ「よわむし太郎」と子どもたちの姿である。

廣済堂あかつき版は右側に子どもに柿をぶつけられている「よわむし太郎」、左側に池とそこに群れる白鳥と子ども集団が配置された見開き二頁下段の絵と、白鳥たちを背に、大きく手を広げ涙を浮かべた眼で正面をにらみつけている「よわむし太郎」の立像が配置されている。

この三種の道徳教材における物語の意味づけの特質について分析していきたい。